

西成連区地域づくり協議会だより

通 巻

第5号

発行日：平成二〇年八月一日

発行者：西成連区地域づくり協議会

一宮市小赤見字郷浦五三（一宮市西成出張所内）

電話：28-9002番

西成連区の活性化策を模索

=西成の①安心・安全②連携③自立を目指して=

各部会とも地域を生かす事業を想定・企画中

地域住民の自主的な活動を目指す、「西成連区地域づくり協議会」が、各種構成団体のご協力を得て誕生して以来、ただちに各部会が積極的に開催されている。

一宮市は従来から連区という優れた仕組みで運営されており、平成の大合併で23連区となったなかでの「西成連区地域づくり協議会」は第1号。そのため西成のこの協議会は、全ての他連区から注目をされている。自由な発想で地域を生かした事業の企画立案に、6部会が現状を見極めつつ、意欲的に取り組んでいます。

各部会での概要は、次のとおり。

●生活・環境・衛生部会（6月19日開催）

現在、平成20年度の事業として、すでに四校下ごとに準備が進んでいる、高齢者の生きがいと健康づくり推進事業や、資源回収推進事業などのほか、各種の公民館事業が当部会の関連事業といえる。

なかでも、公民館事業については、従来の事業に捕らわれず、企画立案が進められているが、高齢者教養講座なども四校下に分散せず、集約したほうが魅力的な講師を招聘できるのではないかと提案もあった。

一方、国道155号の中央分離帯の雑草や、空缶やゴミのポイ捨てなど景観美化に焦点を絞った事業展開は出来ないだろうかとの意見もあり、次回の部会開催議題とすることにした。

●地域福祉部会（6月27日開催）

地域の福祉は、福祉制度で全てが解決するものではない。またボランティアだけでも対応は出来ないだろう。地域の民生児童委員や町内役員が、地域情報を共有する必要もあるだろう。福祉の最小単位（細胞）は家庭・家族であり、向かう三軒両隣のつながりが原点ではないのか。まだ西成には向かう三軒両隣を築く素地はある。

西成のコミュニティづくりは、住民と住民が手を携え、個人情報保護法の域を越えない、向かう三軒両隣の思想を備えた、福祉の西成を確立出来ないものか。

次回の開催（9月22日）に、引き続き話し合うことにした。

●広報部会（7月8日開催）

西成連区地域づくり協議会だよりが、現在A4判表裏に印刷して全戸配布されており、関心のある住民には目を通して頂いているようだ。特に、先取りをした西成の行催事情情報は好評であり、今後も継続したい。また、西成の祭り、名所旧跡、歴史上の人物などに焦点を当てた特集などを掲載することにより、西成を見聞を広めることにより、郷土愛が育まれるものと思。地道な広報活動は大切であるとの意見あった。

ただし、次世代に向けホームページを視野に入れつつ、少なくとも暫くの間は併用するべきではないかと意見もあり、次回開催（8月11日）には、IT化について引き続き検討することとなった。

>>夏の安全なまちづくり県民運動<<

一宮市防犯運動期間：8月1日～10日

重点事業 ①地域安全活の積極的な推進 ②青少年の健全な育成
③暴力及び銃・凶器の追放 ④薬物乱用の根絶